

太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2024. 2

「親」



1月28日。長男の結婚披露宴で上京しておりました。
その朝、東京では震度4の地震が!(;°Д°)

「もし向こうで首都直下型地震に遭ったら
結婚式どころではないぞ・・・」
不安がよぎりましたが、新郎父が怖気（おじけ）
づいて逃げるわけにはいきません😅
到着後は余震もなく、予定通り“私らしい”
「新郎父のあいさつ」ができました。



そのあいさつ、次男の時と同様に“練りに練って”事前に考えました。定番の謝辞で十分、なのでしょうが、太田先生は「型破り」ですからね。新郎新婦だけではなく、式場にいる全員（司会者やスタッフさん）にも感動してもらいたいと頑張りました。結果、たくさんのお褒めの言葉をちよだいしました～(*´▽`*)

以下、ノーカットであいさつの全文を記します。

本日はお寒い中、震度4の大きな揺れの中、命懸けでご臨席賜りましてまことにありがとうございました。両家を代表して心から御礼を申し上げますとともに、親族控室で勝手にやっってくださいとご指摘を受けそうですが新婦玲奈さんとの初対面時のエピソードをここで述べさせていただきます。

仕事で上京した際に初めて会った1年間。感じの良い女性で、こちらとしては申し分ないと思いましたが、最初が肝心、私は言いました。

もしあなたやご両親が、相手の実家が遠方の長崎ということで悩んでいるなら交際は止めたほうがいい。息子のことを、信頼して愛してくれているなら、「どこに住もうが関係ない」「彼と一緒にこれから人生を歩みたい」という思いが一番であってほしい。出自よりも、人を見て判断してほしい。

あなたの将来を真剣に考えて、私は嫌われる覚悟で本音を伝えました。それに対して、あなたも真剣に考え、真剣に答えを出してくれました。その答えが今日の日です。ほんとうにありがとう。そして玲奈さんの決断を受け入れてくださったご両親様には、改めて感謝申し上げます。

私は「もらう」「もらわれる」「取った」「取られた」という旧来の結婚観にとっても違和感を持っています。子どもは親や家の所有物ではありません。一人の独立した存在のはず。「太田家は嫁に玲奈さんをもらった」など、毛頭思っていない。

結婚とは双方の親からの

子どもの「最終的自立」

そう私たち夫婦は考えています。



さて、親という漢字の意味には諸説ありますが、私は「木の上に立って子どもを見守る」という説を取っています。

木の上に立って子どもを見守る親が、「あ〜この子たちはもう心配ない、困難も協力して乗り越えている、幸せそうだ」と安心して見守れる。それこそが親の一番の願い、ではないでしょうか。

だから、物の豊かさよりも、「心の豊かさ」に幸せを感じる家庭を築いてほしい。ミニマム（最小限）の生活の中で、マキシム（最大限）の喜び・楽しみを見出す。どうぞ、親に気を使うことなく、自分たちの人生を、自分たちの価値観でしっかり歩いてほしいと願っています。

そうは言っても、まだまだ若い。人生、くじけそうになる時、笑顔になれない時も多々あります。

そんな落ち込みそうな時のために
薬剤師の太田麻里が
“母さんが夜なべをして〜♪”
特効薬を調合してきました。



これを1日1回朝、見上げてください。
どんなに凹んだ時でも、
「やる気・元気」が湧いてくる
効能効果があります！

二人の幸せを長崎と東京から、

木の上に立って
見守っています。



“盛って”、誇張して当日あいさつしたのではなく、ほんとうに

新郎母は“母さんが夜なべをして～♪”

「最大限の母性を発露して」画き上げた、のです！（涙）
（15年間、「麻亜耶」のんでいるからね😊😊）



一方、新郎父は・・・
当日朝4時半に起きて

祝福の手打ち蕎麦を
打って、結婚式場に持参して

二人に届けたのでした～（涙）

我が家は自慢でもなんでもなく
そういう家族です(*´▽`*)

